

「藤堂元甫著作集」の刊行に際して

上野市長 今中原夫

昭和四十八年に発足しました上野市古文献刊行会は、当市立図書館に所蔵されている特に貴重な古文獻を、逐年復刻刊行して参りましたが、その一連の事業として、このたび「藤堂元甫著作集」を刊行することになりました。

藤堂元甫は、藤堂藩伊賀上野支城の司城職であります。武人としては稀に見る碩学で、先年当会が刊行しました「定本三國地志」並びに「同図譜」は、彼の編著にかかる畢生の大作であり、当時の地誌としては学界でも矚目されている偉業であります。

元甫の著作は多数ありますが、今回は当図書館に原本が保存されている「思川記」・「元甫和歌集」・「伊賀国式社考」の三部を集大成して復刻いたしました。

「思川記」は寛保二年から三年にかけて、幕命により利根川治水工事に副奉行として参画した際の記録で、細密な絵図を添えた工事の顛末や、その地方の風俗習慣・民間伝承まで、詳細に記録した貴重な資料であり、当時の土木工事の実状を知る上にも得がたい記録であります。「元甫和歌集」は、二百五十七首に及ぶ著者自作の和歌を集録したもので、添削したあとがわかるよう原本どおり復刻いたしました。味読するほどにその人がらと文学的才知が輝いて感じられる秀作歌集であります。また、「伊賀国式社考」は伊賀国内の式内社について、旧来の学説に著者独自の考証を加えたもので、これが「三國地志」の伊賀神祀篇記述のもとになったと考えられ、神社史研究上貴重な著述であります。

著者の偉業を顕彰する意味においても、歴史研究者のみならず広く一般愛書家の御購読をおすすめする次第であります。なお四頁に一覧記載の当会既刊書は、全国的に好評を得ている江戸期の貴重な史料ですので、本書と合わせて御購読下さるようお願いいたします。

宇都可ノ神社

在ニ府中郷土橋村大堀山ニ總國風土記ニ曰所レ祭顯國玉ノ神也天武天皇二年

癸酉六月始行祭禮ニ加ニ主田ヲ三代實録云貞觀十五年授ニ伊賀国

從五位下一里人號ニ大堀大物主社ニ是レ也今

明神一掲ニル名額一者非レ是

一座ニ而自ニ祭祀ノ神膳一以

座ノ而祭具皆用レ兩無レ知

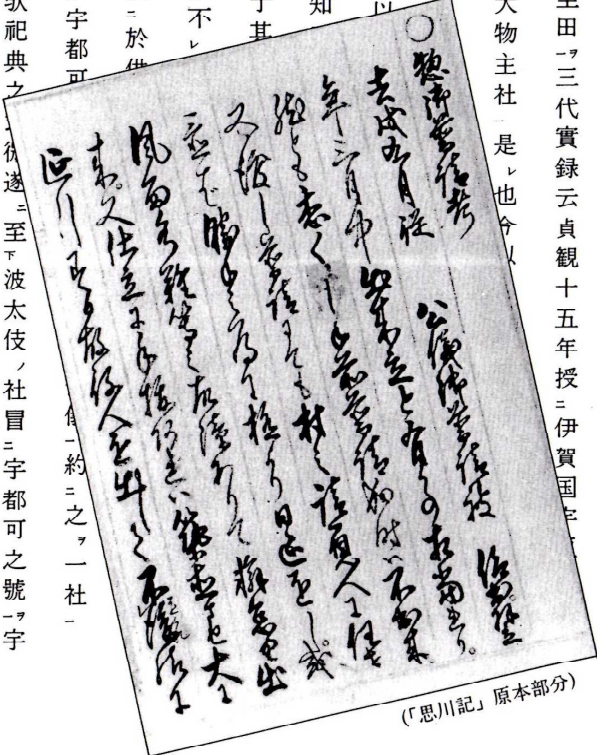
齋一凡ソ十社而式社居ニ于其

民漸散邑下孤闕各社例祭不レ

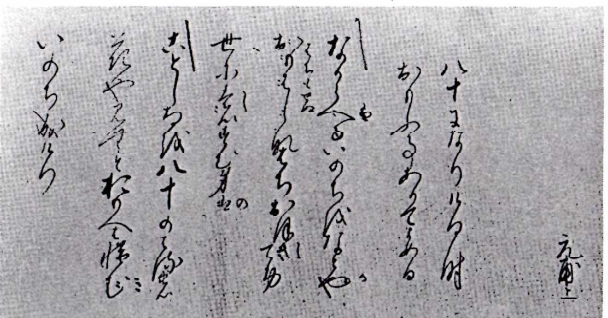
腸迂回登路艱險尤不レ便ニ於伊

太伎ノ社併祭二座ヲ以爲ニ宇都可

五邑俱祭以爲ニ恒例一也欽祀典之ヲ行遂ニ至下波太伎ノ社冒ニ宇都可之號ヲ宇



「思川記」原本部分



「元甫和歌集」原本部分

「伊賀国式社考」刊行本内容部分